

武雄市議会だより

栄八通信

第 42 号

14710 月末発行



武雄市議会議員
宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

4月の選挙と会派の動向

4月の市議選は、定数が、30から26に削減されて選挙が行われた。その結果をデータ的に見ると、地区別では、武雄町と山内町2減、朝日町1減の5減に、北方町が1増で、定数4人削減の影響を受けている。

また、得票数で見れば、H18年の前回と比べると、最下位当選者は、H18年706票で、今回は881票で差175票とハードルが高くなっている。

また、各町当選者の平均得票数を出すと、表のようになるが、北方町の1増は一人当りの得票が1000票余りで、バランス良く票が分れたとも見れる。

一方、やはり、強いのは、町から1候補が出ている所で1200票以上。

これを見ると、議員を削減すると、町から一人も議員がいなくなるの反対意見も聞くが、データ的には、もう少し減らしても、大丈夫とも考えられる。

選挙の結果

町名	改選前	改選後	増減	平均得票数
武雄町	9	⑦	-2	1,052
朝日町	4	③	-1	1,163
橘町	1	1		1,240
若木町	2	2		1,342
武内町	2	2		1,032
東川登町	1	1		1,402
西川登町	1	1		1,210
北方町	4	⑤	+1	1,003
山内町	6	④	-2	1,108
議席数	30	26	-4	

報告

4月臨時市議会 (ポスト決め)

4月23日に、初の臨時議会が開かれ議長などの選任が行われた。注目の議長選で、私は、早くも選挙中から、市民の複数の方から、今度の議長は、山口昌宏氏では、とか、黒岩氏ではないかと度々聞かれたが、私は与党でもないのだから、知らないが、そんな話は良く聞きますと返答していたし、私もそうなのかと、議長選の直前まで思っていた。結局、多数をしめる与党系は、牟田氏で一本化されていて、選挙結果は、牟田氏18票、吉原氏5票、平野氏3票であった。

また、副議長選は、小池氏が18票、吉原氏6票、江原氏2票で、牟田議長・小池副議長を選任。この結果から解ったのは、新議会の与野党バランスは、与党・中立系18人と、野党系8人が明確になった。

常任委員会

予算などは、本会議で、執行部より説明を2日程度受け、また議員より質疑を行う。

その後に、常任委員会に付託して審査を2日程度行う。それを最終日、常任委員長が審査結果を報告し全員で採決する。このよう

の委員長等ではなく、各種議会議員とあって、広域圏組合等の議会や委員会などへの派遣議員。

まず吉原氏が、「杵築地区広域圏組合議員」を希望され、その理由は、地元杵築クリーンセンター閉鎖後の管理や跡地利用について以前の漏水問題から携わっているため、ぜひ議員として働きたい。

もう1ポストは、小柳氏が武内町に隣接して計画されている新広域ゴミ処理センターについて地元武内の方から、是非、佐賀西部広域環境組合の議員として出て、地

元の連携をして欲しいとの要望にこたえたいとして表明。

会派代表者会で長時間、与党系会派にお願いされていた。与党系からは、「どちらか一方を」ならOKの様な返答で、吉原氏が苦渋の選択で引くとの結論を出し円満解決と思ったが、再度、代表者会議を始めると、5分もたっていないのに、いきなり「状況が変わった。両方とも選挙」で決まると、与党系が言い出して、選挙へ突入。

私は、いくら武雄に派閥は昔からあると言っても、各種委員の選

出で、本会議場で正式な選挙まで対立するなど知らないし異例。しかも、2人会派の新民主クラブの黒岩氏と松尾初秋氏が、2人揃って、約100億円のゴミ処理場を作る佐賀県西部環境組合の委員になることには、私は全体のバランスから問題があると思った。

選挙結果は、派遣各2名枠に(敬称略)

杵藤↓末藤9・吉川9に吉原8票西部↓黒岩9・松尾9に小柳8票で18票を2つに分けたと考える。与党・中立系の4枠独占で決着。

「みんなの政策集」とは？

樋渡市長のマニフェスト的なもので、前回H18年は、「具約41」と言って企業・学校誘致などあった。

今回H22年は、「みんなの政策集」として21項目あり、市長のブログに載っているという。

しかし、紙の印刷物での配付はされてなく、一般市民は、この政策集の内容を、ほとんど知らない。

そこで、6月議会の一般質問で市長の選挙公約であるなら、市報などで、広く市民に知らせるべきではないか？また、政策集が市民の声に対する答の形になっていて、内容が解り難いので、21のタイトルを付け、市民に理解しやすくすべきでないのかの質問をした。

市長は、個人的な選挙の時の政策で、まだ、市の政策ではない。また、解りやすいタイトル付けについては、市民の方が自由に呼んで良い等の答弁で実現への熱意を感じなかった。

市民は、個人的な選挙の時の政策で、まだ、市の政策ではない。また、解りやすいタイトル付けについては、市民の方が自由に呼んで良い等の答弁で実現への熱意を感じなかった。

市長は、個人的な選挙の時の政策で、まだ、市の政策ではない。また、解りやすいタイトル付けについては、市民の方が自由に呼んで良い等の答弁で実現への熱意を感じなかった。

みんなのバス

政策集21の三本柱とされるものにこれがある。一部新聞には紹介されていたが、交通弱者の対策として、希望の区などに対して、市が、8人乗りワゴン車を提供し、地域

元との連携をして欲しいとの要望にこたえたいとして表明。

会派代表者会で長時間、与党系会派にお願いされていた。与党系からは、「どちらか一方を」ならOKの様な返答で、吉原氏が苦渋の選択で引くとの結論を出し円満解決と思ったが、再度、代表者会議を始めると、5分もたっていないのに、いきなり「状況が変わった。両方とも選挙」で決まると、与党系が言い出して、選挙へ突入。

私は、いくら武雄に派閥は昔からあると言っても、各種委員の選

出で、本会議場で正式な選挙まで対立するなど知らないし異例。しかも、2人会派の新民主クラブの黒岩氏と松尾初秋氏が、2人揃って、約100億円のゴミ処理場を作る佐賀県西部環境組合の委員になることには、私は全体のバランスから問題があると思った。

選挙結果は、派遣各2名枠に(敬称略)

杵藤↓末藤9・吉川9に吉原8票西部↓黒岩9・松尾9に小柳8票で18票を2つに分けたと考える。与党・中立系の4枠独占で決着。

お 結 び 課

市が、市内住民の結婚の仲介をするもの、伊万里市も同様目的の婚活課が作られ、嬉野市も検討中とのこと、未婚者の増大が社会問題化して来たとも言える。

お結び課の内容を聞くと、課長一人を月給8万円で雇用し、成婚になれば、1件3万円の手当が出る。この課長は、嘱託職員だが1名の部下は、正職員とのこと。

課長は、話題性を高めるために全国公募にするが、地元応募者を優先する。また、公募の課長に、もれた方の中から、3人程度、補助員として雇用する考えのようにだが条件や報酬はまだ未定と言った。

年間、10組の成婚の目標。また、まず市内者同士を引き合わせその後、市外者を紹介する方針。9月からスタートすると言う。

武雄市総合福祉センター

4年間の任期中に、空庁舎を活用して、子育て・障害者・高齢者福祉・市民や各種団体の交流の場を作ること。H22年、今年度中に、設立準備委員会を開設し意見を取り入れるとのこと。話によれば、巨樹の会に割り引いて売った元市民病院の建物を家賃を払ってするという(首をかしげる)話もある。

